

主日礼拝

2026年2月1日
午前10時30分

前奏 「み栄え告げる歌は」 (P.L.ライト)

参集 (報告・紹介・予定)

招詞

「涙と共に種を蒔く人は
喜びの歌と共に刈り入れる。
種の袋を背負い、泣きながら出て行った人は
束ねた穂を背負い喜びの歌をうたいながら帰ってく
る。」 (詩編 126 : 5,6)

頌栄 26「グロリア」



信仰告白 使徒信条

我は天地の造り主、全能の父なる神を信ず。我は
その独り子、我らの主、イエス・キリストを信ず。
主は聖霊によりてやどり、処女マリヤより生れ、
ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架に
つけられ、死にて葬られ、陰府にくだり、三日目に
死人のうちよりよみがへり、天に昇り、全能の父なる
神の右に坐したまへり、かしこより来りて、生ける
者と死ねる者とを審きたまはん。我は聖霊を信ず、
聖なる公同の教会、聖徒の交はり、罪の赦し、身体の
よみがへり、永遠の生命を信ず。アーメン。

賛美 19-1、4「み栄え告げる歌は」



1 み栄え告げる歌は
心にひびきわたり、
わがおごり打ち砕く、ハレルヤ。

4 息あるものはすべて
調べに合わせ 歌え。
み栄えはただ神に、ハレルヤ。
アーメン。

祈禱

献金

主の祈り

天にまします我らの父よ、
ねがわくは み名をあがめさせたまえ。
み国を来らせたまえ。
みこころの天になるごとく
地にもなさせたまえ。
我らの日用の糧を、今日も与えたまえ。
我らに罪をおかす者を我らがゆるすごとく、
我らの罪をもゆるしたまえ。
我らをこころみにあわせず、
悪より救い出したまえ。
国とちからと栄えとは限りなくなんじのもの
なればなり。
アーメン。

賛美 39-5 (2 回)「ハレルヤ」



聖書 マルコによる福音書 4:1~9

新約(新共同訳)P66~

1 イエスは、再び湖のほとりで教え始められた。おび
ただしい群衆が、そばに集まって来た。そこで、イエ
スは舟に乗って腰を下ろし、湖の上におられたが、群
衆は皆、湖畔にいた。2 イエスはたとえていろいろと
教えられ、その中で次のように言われた。3 「よく聞
きなさい。種を蒔く人が種蒔きに出て行った。4 蒔い
ている間に、ある種は道端に落ち、鳥が来て食べてし
まった。5 ほかの種は、石だらけで土の少ない所に落
ち、そこは土が浅いのですぐ芽を出した。6 しかし、
日が昇ると焼けて、根がないために枯れてしまった。
7 ほかの種は茨の中に落ちた。すると茨が伸びて覆い
ふさいだので、実を結ばなかった。8 また、ほかの種
は良い土地に落ち、芽生え、育って実を結び、あるも
のは三十倍、あるものは六十倍、あるものは百倍にも
なった。」9 そして、「聞く耳のある者は聞きなさい
い」と言われた。

賛美 53「神のみ言葉は」

Almighty God, your Word is cast
詞: John Caswood, 1779-1852

ST. FLAVIAN
曲: Psalter, 1562



- 1 神のみ言葉は この世界に
蒔かれて芽生える 種のように。
- 2 悪魔にみ言葉 奪われぬよう
心に根づかせ、育ててゆけ。
- 3 試練の災の 阻むときも 4 み言葉は育ち、地に広がり、
負けずに育てよ、実る日まで。 平和とよろこび 満ちあふれる。

説教 「蒔かれ続ける種」

聖餐式 81「主の食卓を囲み」

(配餐前 1,2 節、後 3 節)

詞: 新垣王敏, 1938-

MAFANA THA
曲: 新垣王敏, 1938-



賛美 195「まかれた種」

When seed falls on good soil
詞: Norman P. Olsen, 1932-

WALHOF
曲: Frederick F. Jackisch, 1922-



- 1 まかれた種 静かに落ち、
芽を吹き葉を出し、みのりを結ぶよ。
種が育つ 良い大地よ。
- 2 生命の種、主のみ言葉、
心に受け入れ、豊かに育てよう。
主よ、わたしを 良い大地に。
- 3 石を除き 草を抜いて
心を耕し、み言葉を受けよう。
われらは主の 良い大地よ。

派遣

司式者 主は言われます。
「わたしは誰を遣わすべきか。」
会衆 わたしがここにおります。
わたしを遣わして下さい。

祝祷

アーメン



後奏 「前奏曲 ト長調 BWV541-1」 (J.S.バッハ)

司式 袁 紅
説教 向井 希夫牧師
奏楽 福原 之織
助餐 大代 恵、光成 由樹